中世の道と城館

真壁城跡の周辺には、奈良時代から中世の「小栗道」と中世古道の「鎌倉街道」が通じ、関連城館が多数残っています。

道は人、モノ、情報をもたらす、地域発展の大動脈。城館群は真壁城とともに地域や町を守り、行政の中心となった重要施設でした。

真壁城跡の関連資料、発掘成果、茨城県歴史の道調査事業（県主催・平成22年度～26年度）の成果など、最新情報を紹介いたします。

小栗道（おぐりみち）

道筋と文化財

奈良・平安時代の官道（伝路）
中世の小栗ー真壁を結ぶ主要道

■小栗城跡　筑西市小栗
中世後期の小栗氏の拠点

■東谷貝字古舘付近の小栗道
正徳４年（1714）道標あり

■駅路長者の伝説が残る長者池
北の谷貝廃寺は真壁郡衙跡推定地

鎌倉街道（かまくらかいどう）

平成23年に発見された中世古道

■橋本城跡 桜川市上城（かみしろ）
結城合戦挙兵地「木所城」か

■長方南の鎌倉街道
小栗から桜川市友部への古道

■青木の鎌倉街道
追分石や足利橋が残る分岐点

■堀でわかる真壁城の年代

朝幹・尚幹の時代
薬研（やげん）堀：断面がＶ字状
幅４m、深さ２m。方形居館の堀。

16世紀後半の堀

久幹～房幹の時代
箱堀：幅15m、深さ３m前後
の平底堀。本丸～外曲輪の堀。

16世紀末の堀

房幹の時代
幅7m、深さ4mの深い薬研堀。

かわらけが溝から出土した状況
（かわらけ：土器酒盃）

実物大
出土した火縄銃
の弾丸（鉛製）
直径 1.2 cm

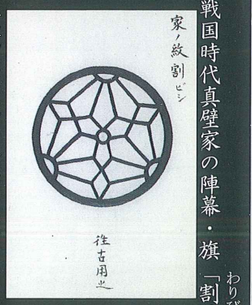
真壁城外曲輪での火縄銃演武
第23回　国民文化祭（2008年）

真壁家の中世武家資料

真壁家から市に寄贈された真壁家資料（県・市指定文化財）の中には戦国時代の真壁氏に関する画像や古文書、旗等があります。

伝・真壁道無画像（県指定文化財）
鬼道無と呼ばれた真壁久幹の画像

永禄四年、上杉政虎の関東出陣の際、関東全域の武家の家紋を記した「関東幕注文」（上杉家文書）には、真壁家の家紋「はりひし」が記されています。



戦国時代真壁家の陣幕・旗「割菱（わりびし）」

真壁城の発掘と年代

発掘では、戦国時代の遺構と遺物が出土しました。年代は中国産や瀬戸美濃産、常滑産の陶磁器でわかります。土器「かわらけ」は当主毎に形が変わる、こだわりの酒盃。形や大きさで、どの当主かわかります。

火縄銃の弾丸も16世紀後半の遺構から出土します。堀は幅、断面形状、深さで年代がわかります。

15世紀後半～16世紀前半の堀

真壁氏の略年表

「真壁文書」等より

時代		
平安	まかべぐんじ 真壁郡司・たいらのたけもと 平長幹	真壁長幹を名乗る
	たけもと 真壁長幹、はったともいえ 八田知家に属し源頼朝の奥州攻めに従軍	
鎌倉	もとしげ 真壁幹重	かめくまひこじろう 亀熊彦次郎と称す
	ししどみつさと 鎌倉府方の宍戸満里、真壁城を攻略	
	真壁本宗家の没落	
南北朝	とももと 庶子家の真壁朝幹	真壁家を再興する
	とももと 真壁朝幹、うえすぎまさとら 置文を記し	要害の構築を説く
室町	上杉政虎（後の謙信）関東出陣「関東幕注文」	てばいさか 手造坂合戦
	真壁軍が小田氏治をうじはる 破り、小田城占拠。	
	ひさもと・さだけすしげ 真壁久幹、佐竹義重の指揮下に入る	
戦国	うじもと 真壁氏幹、豊臣秀吉に太刀・馬・金を献上	
	関ヶ原の合戦	
	ふさもと・しげもと 真壁房幹、重幹兄弟佐竹氏と秋田へ移封（慶長7年・1602）	
江戸	あさのながまさ 浅野長政、真壁・筑波両郡を隠居領として入封	

桜川市教育委員会作成　2014年度版
茨城県桜川市真壁町飯塚911　桜川市役所真壁庁舎
桜川市教育委員会文化財課
0296－55－1111（代）

真壁城の関連城館（桜川市真壁町）

■ 長岡堀の内
桜川市真壁町長岡字堀の内
真壁家の一族、長岡氏の拠点地域。「堀の内」の堀は城館の堀もしくは、用水路と推定される。堀、土塁等城館遺構は不明。

■ 亀熊城跡
桜川市真壁町亀熊地内。
南北朝時代頃の真壁家の本拠に推定されている。堀、土塁が点在。中世亀熊郷の大半を城郭化。14～16世紀の遺物が出土する。

■ 塙世城跡
桜川市真壁町塙世地内
真壁家家臣榎戸家の城。江戸後期村絵図に太郎左衛門屋敷（橋右）、平左衛門屋敷（橋左）等が描かれ、字堀の内付近に堀、土塁が残る。

■ 谷貝城跡
桜川市真壁町上谷貝字舘
真壁家家臣藤田家の城と推定。
戦国期の真壁家が修理した鹿島神社（県指定文化財）南側にある。平将門の伝承地（杉山私記）。

■ 谷貝峰城跡
桜川市真壁町下谷貝字峰
主郭を外郭が囲む。主郭の堀と土塁がよく残っている。峯左近将監築城と伝わり、平将門の伝承地でもある（杉山私記）。